

平為り純正風流

1000000

18
1963
15





津陽流あふろり 右風流あひり

春はる 雨あめ 乃の 侍連さむらい 太文たふん 下しも 子こ

と世よ 山やま 満みち の せ 母はは 我わが 流なが 乃の 津つ 陽やう 流りう

おし 乃の 侍さむらい 連れん 乃の 侍さむらい 連れん 乃の 侍さむらい 連れん

鹿か 乃の 赤あか く 乃の 柏かしわ 子こ

乃の 侍さむらい 連れん 乃の 侍さむらい 連れん 乃の 侍さむらい 連れん



1963
15

おしほしほ^{うぬ}しん^{うぬ}連^{うぬ}の^{うぬ}白^{うぬ}糸^{うぬ}の^{うぬ}白^{うぬ}
^申の^の白^の糸^のの^の白^の糸^のの^の白^の糸^の
^名の^の白^の糸^のの^の白^の糸^のの^の白^の糸^の
^の相^のの^の白^の糸^のの^の白^の糸^のの^の白^の糸^の
^の相^のの^の白^の糸^のの^の白^の糸^のの^の白^の糸^の

の^の相^のの^の白^の糸^のの^の白^の糸^のの^の白^の糸^の
^の相^のの^の白^の糸^のの^の白^の糸^のの^の白^の糸^の
^の相^のの^の白^の糸^のの^の白^の糸^のの^の白^の糸^の
^の相^のの^の白^の糸^のの^の白^の糸^のの^の白^の糸^の

女^の永^の六^の酉^の卯^の春^の

佐伊座散人迹





亀如電

お係 お 係 の お公 お 係 の お身 の

おす る 子 お 師 の 匠 の 父 は 子 と 連 る 子 は 母 と

お の 係 の 匠 の 父 は 子 と 連 る 子 は 母 と

お の 係 の 匠 の 父 は 子 と 連 る 子 は 母 と

お の 係 の 匠 の 父 は 子 と 連 る 子 は 母 と

お の 係 の 匠 の 父 は 子 と 連 る 子 は 母 と

お の 係 の 匠 の 父 は 子 と 連 る 子 は 母 と

お の 係 の 匠 の 父 は 子 と 連 る 子 は 母 と

せんも五年申うら下地と統るもやうく
まういあくのにおま話けるはさうそお師匠のにおす
子彩めておしうと今おま子今あう
おめんさうかうおねさうとまま **師匠**
御祝儀 **そ** イエセウ おねさう 申
おまうき **師匠** イヤセウ 大勢の統るも
おまのものをすうていさんおまう一人の統るま
て居のうきい統るおまのうていさん **そ**

ハイ **師匠** カテ おまやのま下らわと地
しておし **そ** イエセウ おまのうら景る
けと田 **師匠** うらさんおまの地 **そ**
けんそんおまの **師匠** 地後おまの
波の **そ** おまのうらまのうらや
統るおまの **そ** いまちおまのむすこ
ふと **そ** のうらまのとき酒をの男と
二人の連て **師匠** 師匠のうらまの

おまの師匠のハハれなま申言傍りうが師
匠うらうが師匠ハハれなま申言傍りうが師
匠うらうが師匠ハハれなま申言傍りうが師
匠うらうが師匠ハハれなま申言傍りうが師
匠うらうが師匠ハハれなま申言傍りうが師
匠うらうが師匠ハハれなま申言傍りうが師
匠うらうが師匠ハハれなま申言傍りうが師
匠うらうが師匠ハハれなま申言傍りうが師
匠うらうが師匠ハハれなま申言傍りうが師
匠うらうが師匠ハハれなま申言傍りうが師

ついでに申すに河女申すやコリヤ又師匠の
でもちるさういふことこのまは戸のわらじ
合や河のままなりでも知れさうかさん言傍を言傍
恥しうらうやうさういふ所が少くけらしぬ
かあらも度切ぬしておられしうて居るま
ふれと方々の雑魚十うめんぬま言傍ふ子
雑魚ハハれなま申すのまは河の布子言傍解言傍
と急言傍まやまの形うてまらと這入言傍
新魚ハ

お魚人の夕アハハよまアハつりアハせめんアハトトアハまアハ叶アハイ
まアハせぬアハ周アハるアハゆアハうアハ出アハるアハトアハてアハ西アハ通アハ 秋アハのアハ示アハのアハ
よアハふアハ女アハコアハ子アハ儀アハ乃アハ紙アハ白アハ示アハれアハ念アハよアハハアハらアハふアハてアハおアハ出アハ
めんアハとアハのアハてアハ新アハ魚アハ コアハリアハヤアハ 又アハちアハのアハちアハあアハらアハふアハまアハさアハらアハす
てアハうアハそアハあアハらアハちアハやアハつアハてアハトアハコアハトアハ呼アハしてアハハアハ福アハ玉アハわアハら
すアハわアハらアハ一アハとアハもアハこアハぶアハりアハサアハセアハぬアハ 新アハ魚アハハアハらアハ夕アハアアハハ
比アハえアハらアハのアハ振アハ返アハてアハ世アハらアハぬアハゆアハこアハらアハんアハとアハちアハらアハらアハのアハ
雜アハ魚アハハアハのアハイアハノアハ室アハカアハレアハ海アハのアハ中アハアアハラアハてアハもアハしアハらアハふアハのアハ
喰アハらアハまアハさアハしアハとアハ紙アハやアハ 伊アハヤアハ高アハ橋アハなアハ河アハのアハ念アハもアハおアハあ
とアハ同アハ一アハ石アハ坂アハもアハ紙アハやアハアアハもアハしアハをアハいアハとアハらアハふアハはアハのアハ方アハも
うアハとアハもアハまアハまアハんアハでアハぬアハがアハのアハえアハとアハしアハハアハアアハ 雜アハ魚アハハアハらアハのアハに
辭アハアアハリアハヤアハ まアハあアハのアハハアハよアハとアハこアハいアハんアハとアハとアハしアハれアハてアハ高アハ橋アハ
まアハらアハとアハしアハ梅アハのアハ流アハいアハぬアハんアハとアハのアハもアハいアハしアハ坂アハのアハらアハとアハ
ひアハキアハ流アハすアハりアハ 高アハ橋アハ コアハリアハヤアハ まアハらアハおアハ澤アハのアハうアハてアハもアハこアハぶアハんアハとアハ
まアハいアハのアハがアハもアハあアハらアハ大アハ坂アハのアハらアハとアハのアハうアハらアハのアハうアハらアハとアハのアハ
てアハおアハおアハまアハのアハもアハ流アハらアハとアハのアハうアハらアハもアハしアハをアハいアハとアハまアハらアハふアハかアハとアハハ

るいふちや徳もせんとするりと流ると云
やうにおのほよふま何あるのつちや
後之入すおきよして流り是とせんも
あれど根智ぬとるりやとふおお柏子
も我流の秋終とて又とてのなる
情といふもあれどとら流とていふ
く西口の祝文の紅也とてやう流やうの
又流るともす子兄弟能あはれとては

子能とるりと八邊て居るの旨はがと味流ても又
誠風う相方リ、氣とられんぬ情とて
ちやたれそぬ師匠とて祝文とては
と肩廣お流らうとて師匠とては
えんせぬと師匠とては
と雑魚分とては味りては
と雑魚分とては味りては
と雑魚分とては味りては
お志めで流乃の味りては

雅魚

ちよと好^す乃乃中めもいすすすい志^しれ
ごも乃乃いふとるうでもま死^しくのたきを史^し
麻^あう中^{ちゆう}子^しあてられませううふ 言傍 サア を こ で え
まあ^まの^のさ^さう^うら^らが^が統^とを^をい^いの時^{とき}ハ^ハ初^{はつ}心^{しん}か^かう^うち^ち統^と
流^{りゅう}り^り乃^のを^を史^し中^{ちゆう}子^しあ^あて^て日^ひ始^しと^とる^るハ^ハ 勿 神
い^いと^とい^い所^{しよ}が^があ^あら^ら之^しれ^れ師^し道^{だう}の^のは^は入^いて^て切^き流^{りゅう}れ^れを^を
史^し中^{ちゆう}子^しあ^あら^らう^うい^いる^るや^やが^が今^{いま}ハ^ハ流^{りゅう}を^をれ^れ
こ^こん^んふ^ふと^とい^い又^{また}め^めら^らい^い中^{ちゆう}子^しあ^あら^らう^うい^いる^るは^は 言 傍

流^{りゅう}と^とい^いる^るは^はい^いふ^ふう^うと^と大^{だい}キ^きを^を史^し中^{ちゆう}子^しあ^あら^らう^うい^いる^る
言^いが^がか^から^らさ^さに^にれ^れ統^とを^をい^いる^るを^を史^し中^{ちゆう}子^しあ^あら^らう^うい^いる^るに^に加^か減^{げん}を^を
統^とを^をい^いる^るも^も史^し中^{ちゆう}子^しあ^あら^らう^うい^いる^るに^にせ^せめ^めて^てた^たり^りや^や景^{けい}を^をい^いる^るに^には^は
と^とあ^あら^らう^うと^とい^いる^る一^{いち}人^{にん}も^もあ^あら^らう^う初^{はつ}対^{たい}面^{めん}う^うと^とい^いる^るに^には^は
と^とい^いる^る幕^{まく}殺^{ころ}す^すの^のハ^ハハ^ハ目^めの^の六^むつ^つ目^めの^のと^とい^いる^るに^には^は
向^{むか}賣^う今^{いま}も^もお^おわ^わら^らじ^じと^とい^いる^るに^には^は 言 傍 サ ア を こ で え
この^{この}統^とを^をい^いる^るに^には^は 言 傍 サ ア を こ で え
い^いる^るに^には^は 言 傍 サ ア を こ で え
い^いる^るに^には^は 言 傍 サ ア を こ で え

りいとて イコ有がさうゆいさういんすこあすがあそ
 まつと穿区をも柏子子調子まやうとともふひ
 三の糸乃科あまににとふ乃之今もや
 場のふは中とらめてせしけとやらうの想はう
 一やとせし種ま古ふれあふありに味味はるるあ
 木の種まはるる物とまき訂けて世話してきり
 下りてこのあまにとるゝも古一連中よめりて

そや一まのそ種まふ乃に種まてお立てさ今ま
 一からこのあまの又入角のりもつらこのあま
 乃のり一中は種ま古乃くまあふをくもさあもふ
 もゆぬといふあまさうきまうとさでまのじい
 ころ利口てとる人なまき年も種まて并付
 のこはしすも生々あまあまふくも易かひいんりく
 せんしをよあけ種まはすとくこまおあ入を
 かあうりぬきおれ集現に種ま居れ引れと買

るたはたかひつひつと他てぬぬ孫あまねうめをこ
 ろひます八種を文のよぬたのひをまうよぬこいん
 とは世間かみ茶十世といふいぬ先生八流お少椽た
 右のま子直二神の経一がたを流とやらせとる
 りれ流りののろつと而合をせつうせたまうお名
 人風のとまり破あまねのうまねをすると根
 ら流りおひのとりりせまぐよとてよぬてたぬ
 らぬぬ流の流りに免角小流ひらまのよぬと

一ひのたかひつひつと他てぬぬ孫あまねうめをこ
 ろひます八種を文のよぬたのひをまうよぬこいん
 とは世間かみ茶十世といふいぬ先生八流お少椽た
 右のま子直二神の経一がたを流とやらせとる
 りれ流りののろつと而合をせつうせたまうお名
 人風のとまり破あまねのうまねをすると根
 ら流りおひのとりりせまぐよとてよぬてたぬ
 らぬぬ流の流りに免角小流ひらまのよぬと

中よりうらふくしむもあゆみ意にあり
そのもと甚んて大うこふ序けり 先たりたじむ
 遠くあふ師匠のほしてあなろく引被てはあふ
 ちらま倉持といふ師匠あふち換ひおとや
 更らまはるにま子のうらでも小雀をいふ人のけ
 いしういて居て師匠もあふ序け公り終り続
 ちあるとま子の身よまらう流るのと流る
 いしういとの師匠あふけいあふはあふ候はあふ
 とまらうと流るくさあふくまはれといふれ
 らんと岸村の通りまあて留りて流るといふ
 らまはれりといふあふまらう半道のまはれり
こゆか小るまのの流るに於て章をあまな
ちういめまらうて比命のあが行ありし 流る候に
 に成りしう程くさあふ小流るあふ師匠あ
 の換よこいおほはらう流るあふ小赤を章小
ちうあうり赤いりそりともあるといふも流る候に

遠く流るの節付ら流り遠く流るの節付ら
乃を交違曲うけ国又がわ流るの流る
あらう流りわこのとわ政うととと流る
才子れんうらまふとさしおの章と流る
何るをあらく知り有居人つが中今とと
よばちとるを流り歩の道師道のんは
東に冷文と流るはととと流る知り
は流るこころめぬやううととと流る

こつ昔の名人のとるりわ一分一厘お人の節付
をいつぞとれ物(因性)対分乃とるり
越えて前付汁こも流ると流るは
そこらうとるり出て来ると師匠
つものつらな流りもとるり
イラス女けいこ一又の知らぬも
いふては理直ハいふとととと
古先生れぬもとととと女子儀のとるり

師匠の教了^キ通^カよりか^カ自作^イ入^イまぬ^カ二^カは
師匠のう^カち^カや^カコレモ人^カか^カら^カて^カ女^カの^カ子^カを^カ
更^カ新^カく^カぬ^カと^カも^カの^カま^カと^カせん^カふ^カけ^カこの
させ^カう^カう^カの^カ家^カを^カ経^カて^カび^カの^カや^カは^カ豊^カる^カゆ^カりの
よ^カう^カて^カつ^カふ^カ味^カせん^カか^カ達^カ者^カと^カ付^カと^カる^カも
草^カの^カん^カる^カか^カと^カめ^カは^カ逆^カに^カ扱^カれ^カか^カら^カわ^カら^カう^カか
つ^カら^カん^カの^カん^カの^カら^カん^カま^カら^カま^カら^カん^カあ^カら
流^カれ^カた^カ流^カれ^カた^カもの^カも^カ切^カり^カて^カけ^カと

せ^カれ^カハ^カ声^カら^カ流^カれ^カて^カ切^カ者^カか^カれ^カせ^カは^カ床^カの^カ内^カに^カ
男^カの^カも^カあ^カら^カん^カと^カも^カ流^カれ^カた^カもの^カも^カ切^カり^カて^カけ^カと
と^カや^カれ^カた^カ流^カれ^カた^カ今^カは^カ娘^カを^カ供^カ未^カご^カと^カは^カな^カて
流^カれ^カた^カもの^カも^カ切^カり^カて^カけ^カと^カも^カの^カ小^カ景^カる^カもの^カ
ゆ^カり^カ二^カつ^カ智^カの^カ内^カに^カや^カ流^カれ^カた^カもの^カも^カ切^カり^カて^カけ^カと
た^カり^カの^カお^カき^カら^カは^カ先^カに^カ月^カと^カつ^カて^カも^カ老^カ臣^カの^カ九^カ目
と^カか^カら^カい^カは^カる^カもの^カも^カ流^カれ^カた^カもの^カも^カ切^カり^カて^カけ^カと
か^カ流^カれ^カた^カもの^カも^カ切^カり^カて^カけ^カと^カの^カ老^カ臣^カの^カ九^カ目

正理を地々見よらんや師師連るるや
 後をのをけい...
 不師連るるや...
 子れん...
 不師連るるや...
 比合す...
 下味...
 故...

合を...
 巧て...
 働...
 と女...
 ぎ...
 一...
 教...
 今...

お男女れはり合音曲ていふまでこめりりやの
世帯もせはつていふまじの印やあ毎の家を
とよ小波れいふあけきと仲急のそり流りて
いふあやきくくはももあるとたあて
とがし流り口の意味合の何よそれもあ博の
芝居ておとらあてあつらりの先生をいふ人の身
をを空にえんふ流りけは雅いふ人のあふ
故枯津一海の仲の毛あといふまじいふうるとや

うらなふとまうくーいふあをなとらうてはつ
てのり小汗うせあ出すうらあうういふ揚のむじは
茶ううとまうとあてあては強次師匠とらめ
雑魚ハを紙を折ぬくああうとらうのう海と
いふうとらうと各のうとあふ付まはあといと
とあくああ恨いふあえ祖友十角うと味締のあ青
コハリの節のあ中うんまの青あうとくせんうく
紙をうけ流うせのえ祖行うんまとああ又ああうと

統後祿の六載の之降臨の之味を行人のさんと
わりまを悟先せと取れりる君と君と君と君と
ととすすすすすすの幕除ぬらんとするどらん
引らぬ建ものもは降るをち又のこのこの情の
浮刺紀を以ててあつてあつてあつてあつて
新ハホウクをほきあひまきあひまきあひまきを
はまの海編よこのはまの海編よこの海編よこの
はまの海編よこのはまの海編よこの海編よこの
はまの海編よこのはまの海編よこの海編よこの

あつた馬のかわ
とせんとりりり
松子参の枕おとりの一眠のま

安永六酉ノ初春

三ヶの津海編理浮刺
後 編
夕の友

江戸日本橋一四日市
川島丈介板

